

介護福祉士養成校卒業生に関する意識調査について

— 本学卒業生の動向調査から —

岩舘亜沙美 鈴木絵美

要旨

本学の介護福祉士養成校前身である八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科の卒業生第 17 回生～第 27 回生 188 人を対象に本研究を実施した。介護福祉士として継続して働く上で必要な条件に、対人援助職としてコミュニケーションの必要性について実感していることから、介護福祉士養成教育において、人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーションが重要であると考えられ介護福祉士養成校としての「卒後教育」の方向性が示唆された。また、回答者全員が、介護福祉士養成校で学んだことに意味があったと答えており自由回答からも、養成校在学中に学んだ知識や技術が生かされているという意見が多数寄せられた。2 年の養成期間での根拠を踏まえた基礎の学びには、450 時間に渡る介護実習での学び、介護技術だけではなく、利用者の全人的理解が必要となる介護過程の実践的展開の学習、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践などがあげられ、同じ志を持った人達と同じ目標に向かって励ましあって進んだ在学期間があることは心強く、社会人となった現在の原動力となっているようにも感じた。

キーワード：介護福祉士 介護福祉士養成校卒業生 卒後教育 卒業生ニーズ

I はじめに

介護分野の就労環境の厳しさ等から介護福祉士養成校に入学する学生の減少が著しく、定員割れが続いて募集を停止する養成校が全国的に出ており、体系的に専門知識や技術を学ぶ介護人材の育成に影響が出ることが懸念されている。公益社団法人・日本介護福祉士養成施設協会の調査によると、2023 年度の入学者数は前年度に比べ 605 人減の 6,197 人となり、2014 年度から約 4 割減った。定員充足率は 51.3%である¹⁾。青森県内の介護福祉養成校はこれまで、8 校あったが苦渋の決断の末、学生募集停止が相次いでおり、2025 年度以降には本学介護福祉学科を含めて青森県内の介護福祉養成校は 2 校のみとなる。介護福祉士は介護現場で、指導的な役割を果たすことが多く、人材不足は介護サービスの低下につながりかねない。さらには、質の高い介護を提供するためには、介護福祉士養成校で体系的に学ぶことが不可欠であり介護を学べる場がなくなれば将来的に、地域の介護サービスの質にも影響が出かねないと考える。

本研究では、八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科卒業生が介護福祉士として稼働しているかどうか、介護福祉士が専門職種として継続して働く上で必要な条件、本学に入学して学んだことが介護福祉職の働き方にどのような実効効果をもたらしているかを明らかにする。また、今後の教育の質の向上、卒後教育に活かし教育活動の充実に繋げていくことを目的として調査を実施した。

Ⅱ 調査対象及び調査事項

1 調査対象

調査対象者は、本学の介護福祉士養成校前身である八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科の卒業生とした。八戸学院光星高等学校の了解を得て卒業生名簿を使用した。調査対象者数は、卒業後 5 年から 10 年を経過した第 17 回生～第 27 回生 188 人を対象とした。

2 主な調査項目

主な調査事項は、(1) 調査対象者の基本属性（年齢、性別、入学動機、介護福祉士以外の所持資格、今後取得したい資格、卒業してからの転職回数、現在の職場の種別、現在の雇用形態、現在の職位、現在の職場での経過年数、これまで介護福祉の仕事に従事した合計年数）(2) 現在の職場に対する満足度（日々の業務、上司との関係、同僚との関係、給与等の待遇、勤務時間や休日、総合的に、スキルアップ支援、働きやすい職場、業務改善の仕組み、職員相互のコミュニケーション）(3) これからも介護の仕事継続したいか (4) 介護の仕事の「やりがい・魅力」(5) 介護福祉士養成校について（介護福祉士養成校に入って役に立った科目名、授業内容）(6) 介護福祉士養成校に入学して学んだこと（自由記述）(7) 卒業後、本学に期待すること（交流会の開催、研修会の開催、教員との交流、卒業生との交流、最新の情報共有、悩み相談）(8) その他（自分の子どもに「介護」の仕事に就職してほしいか、介護福祉士養成校の後輩に向けてメッセージ）である。

3 倫理審査について

本調査研究の実施について、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部倫理委員会」の審査を受け、2024 年 6 月 25 日付けで承認されている（審査番号【24-18】）。

Ⅲ 調査方法

調査は郵送法により実施した。調査票は、対象者の在学時の自宅に郵送し、調査回答に協力得られた場合、返送をお願いする無記名調査とした。なお、調査対象の卒業生が調査に回答し返送後に調査協力を撤回したい場合、撤回可能であること、調査に協力しなかったことにより、何らかの不利益を被ることがない旨を明記した。調査票の郵送及び返送回収は、2024 年 7 月下旬から 9 月上旬にかけて実施した。

Ⅳ 調査の結果

調査を依頼した対象者、卒業後 5 年から 10 年を経過した第 17 回生～第 27 回生 188 人のうち、回収し有効回答としたのは 52 件、回収率は 27.7%であった。数値は小数点以下第 2 位で四捨五入している。数値は特に表示がない限り百分率である。各項目において無回答者があり、結果の集計においては、性別や年齢などに基づく比較検討など、一部項目において無回答を除外している。

1 回答者の基本属性

(1) 回答者の人数、性別、年齢段階別

回答のあった 52 人の性別及び年齢段階は、表 1 及び図 1 のとおりである。性別、年齢段階ともに 2 名の無回答者があった。小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計しても必ず 100%

とはならない。以下同様。

表1 回答者の性別及び年齢段階

(上段：人、下段：%)

	20代	30代	40代	50代	無回答	合計
男	3	8	0	0	0	11
(%)	17.6%	42.1%	0.0%	0.0%	0.0%	21.2%
女	14	10	6	8	1	39
(%)	82.4%	52.6%	100.0%	100.0%	50.0%	75.0%
無回答	0	1	0	0	1	2
(%)	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	50.0%	3.8%
合計	17	19	6	8	2	52

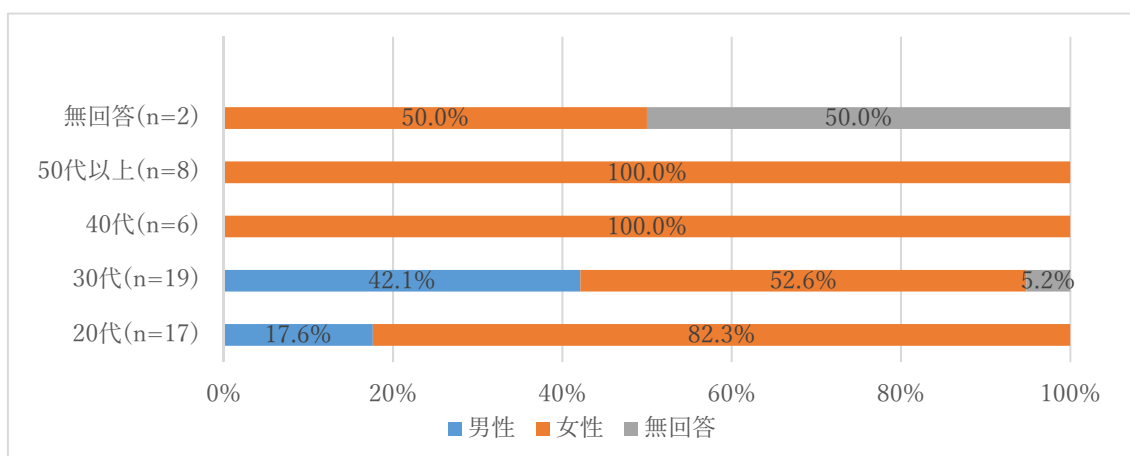


図1 回答者の性別 (年代別)

回答者数52人のうち、性別では男性11人(21.1%)、女性39人(75.0%)であった。(無回答者2人)回答者のうち女性が約4分の3となっている。また、年齢段階別では、20歳代17人、30歳代19人、40歳代6人、50歳代8人となっている。(無回答者2名)回答者の平均年齢(年齢階級に基づき算出)は、男性が38歳5ヶ月、女性が41歳10ヶ月、男女平均では41歳1ヶ月であった。

(2) 八戸学院光星高等学校専攻科に入学した動機について

「入学した動機」について、具体的な記載を求めたところ、表2のとおり回答があった。(明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま)

八戸学院光星高等学校専攻科に入学した動機には、介護福祉士の資格取得のためが多数記載されており、他には介護の仕事に興味があった、誰かの役に立ちたい、高校が福祉コースだったため進学を決めたという内容の記載があった。

表2 「入学した動機」の理由 (原文のまま)

- ・資格を保持せず勤めていたため、資格取得と学びを深めるため
- ・介護福祉士の資格を取りたかったから

- ・介護福祉士の資格をとるため
- ・退職のタイミングで委託生制度を知り、将来に役立つと考え入学を決めました。
- ・人の為になる仕事をしたいと思って。資格取得のため。
- ・友人にすすめられた
- ・介護福祉士資格取得の為
- ・高校で福祉コースを選択しており、将来の職業として介護福祉士を取得したかった為。
- ・介護福祉士になりたいという夢があった為。自宅からも近く高校でも介護コースであった為。
- ・高校在学中祖母と祖父、曾祖母とくらししており、曾祖母を祖母が介護しているのを見て介護に興味を持ち介護について深く学びたいと思い入学した。
- ・介護業界が景気に左右されない仕事だから。それに関連する資格をとりたい
- ・病気にて休職後、職業安定所にて情報提供受けたため
- ・介護の専門的知識を学び、国家試験を取得する為
- ・以前から介護の仕事に興味があり、資格を取得したいと思ったため
- ・人にたずさわる仕事がしたくて。介護の仕事が楽しそうだなと思って
- ・介護福祉士の資格を取得し、基礎をしっかり学びたかったため
- ・介護福祉士の資格取得の為と介護の知識を得る為
- ・今後も長く働き続けるために介護福祉士の資格を取得したかったため
- ・介護福祉士の資格も取得できるから
- ・親が介護士で自分もなりたいたと思ったから。老人を世話することが好きだから
- ・リストラされたので、安定した仕事に転職したかった。
- ・高齢者のお世話をしたいため
- ・実習に行き、障害者や高齢者の人達のためになるような仕事に就きたいと思ったから
- ・基礎から学んで資格を取りたいと思ったため
- ・兄妹共に医療・介護職についていたため
- ・ヘルパー2級取得後、福祉施設～支援学校に勤めていましたが、もう少し専門的な知識を身につけたいと思っていたころ、ハローワークの紹介で専攻科で学べるという情報を知り申し込みました。
- ・元々、八戸学院高等学校の福祉コースに入学し、介護福祉士の資格がほしかったので入学した。
- ・介護に興味があったから
- ・安定した資格を持った仕事がしたく、2年間ゆっくりと技術を習得できると考えたため
- ・介護という仕事にやりがいを見つけられそうだったから
- ・専門的に介護の勉強をしたかったから。2年で資格を取れる。卒業と同時に国家資格を取れると聞いたから。
- ・友達が専攻科入学を希望したため、一緒に入学した。
- ・幼少期から父母祖父母に助けられて来て、これからは僕が恩返しをきたくて志望しました。
- ・高等学校(光星)福祉科在学中に資格取得・知識や技術の習得に向け進学したいと思った。
- ・手に職を持つと同じ気持ちでした。介護という大きなくりの中で自分の知識を広め年齢に関係なく社会にも役立ち、今後の家族の生活にも役立てていきたいと考えて入学を希望しました。

- ・別職種にて仕事をしていたが、特に資格もなく常勤職員として働きたくても再就職が困難な状況であった。高齢化社会で今後福祉系の資格を取得できると再就職に優位になると考え入学を希望した。高等職業訓練促進給付金及びハローワークの職業訓練を利用できたことも大きな要因である。
- ・介護の仕事をしたかったから
- ・何か資格を身につけたいと思ったから
- ・前職でタクシー運転手をしており、通院のお客様を乗せることがありました。その時に乗降がどう手を貸したらよいかかわからず、上手な移乗ができないものかと介護に興味を持ち転職も考えていたため職安に相談に行ったところ、専攻科の話を聞いて入学までとんとん拍子に進みました。
- ・手に職をつけたかったから。
- ・介護を勉強することができ、資格を取得できるから。
- ・介護の仕事に就きたいと思い職業安定所に相談したところ介護福祉士の資格取得できる制度があることを教えていただき志望させていただいた。
- ・介護の知識、技術を学ぶため。介護福祉士の資格を取得するため。
- ・高校が福祉科であったから
- ・母の介護を機に在宅でみてましたが、全く出来なかった自分に腹が立ち、たまたま職安で見かけた養成校の募集をみて応募しました。
- ・介護に興味があったから。人の役に立ちたいと思ったから
- ・小学生の頃から介護福祉士になりたくて、県内の学校を探していたところ、当時は八戸市は2か所くらいしかなくて、光星の方が、いろんな活動があり楽しそうだったので選びました。

(3) 介護福祉士以外に取得している資格について

回答のあった52人のうち、介護福祉士以外に取得している資格は、表3のとおり回答があった。喀痰吸引6人、介護支援専門員4人、社会福祉士2人、実習指導者研修2人、認知症介護実践リーダー1人となっている。

表3 介護福祉士以外に取得している資格

喀痰吸引	6
介護支援専門員	4
社会福祉士	2
実習指導者研修	2
認知症介護実践リーダー	1

(4) 今後取得したい資格について

回答のあった52人のうち、今後取得したい資格について、表4のとおり回答があった。社会福祉士2人、介護支援専門員10人、精神保健福祉士1人となっている。

表4 今後取得したい資格について

社会福祉士	2
介護支援専門員	10
精神保健福祉士	1

表3、4の資格を取得し、専門的知識・技術の向上に励み、次世代を担う後進の育成、地域福祉の推進など、利用者の生活を支えることに最善を尽くしたいという努力が伺える。

2 現在介護福祉職として働いている方

現在、介護福祉職として働いている方は、全体の 52 人中 37 人であった。(無回答者 2 人)

(1) 卒業してからの転職回数について

回答のあった 52 人のうち、卒業してからの転職回数は表 5 のとおりである。(無回答者 16 人)

0 回 19 人、1 回と 2 回は 6 人、3 回 3 人、4 回以上 2 人となっている。半数以上が、転職していないを上回っている。

表 5 転職回数について

0 回	19
1 回	6
2 回	6
3 回	3
4 回以上	2

(2) 現在の施設種別について

回答のあった 37 人の施設種別は、図 2 のとおりである。年齢別にみると、20 代で多い施設種別は多い順に、介護老人福祉施設 6 人(60.0%)、訪問介護 2 人(20.0%)となっている。30 代では、介護老人福祉施設 4 人(28.6%)、認知症対応型共同生活介護、介護老人保健施設、障害者支援施設ともに 2 人(14.3%)となっている。40 代では、小規模多機能型居宅介護 2 人(40.0%)、通所介護、介護老人福祉施設、介護保険以外のサービスがともに 1 人(20%)となっている。50 代以上では、認知症対応型共同生活介護 2 人(33.3%)、小規模多機能型居宅介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設がともに 1 人(16.7%)となっている。

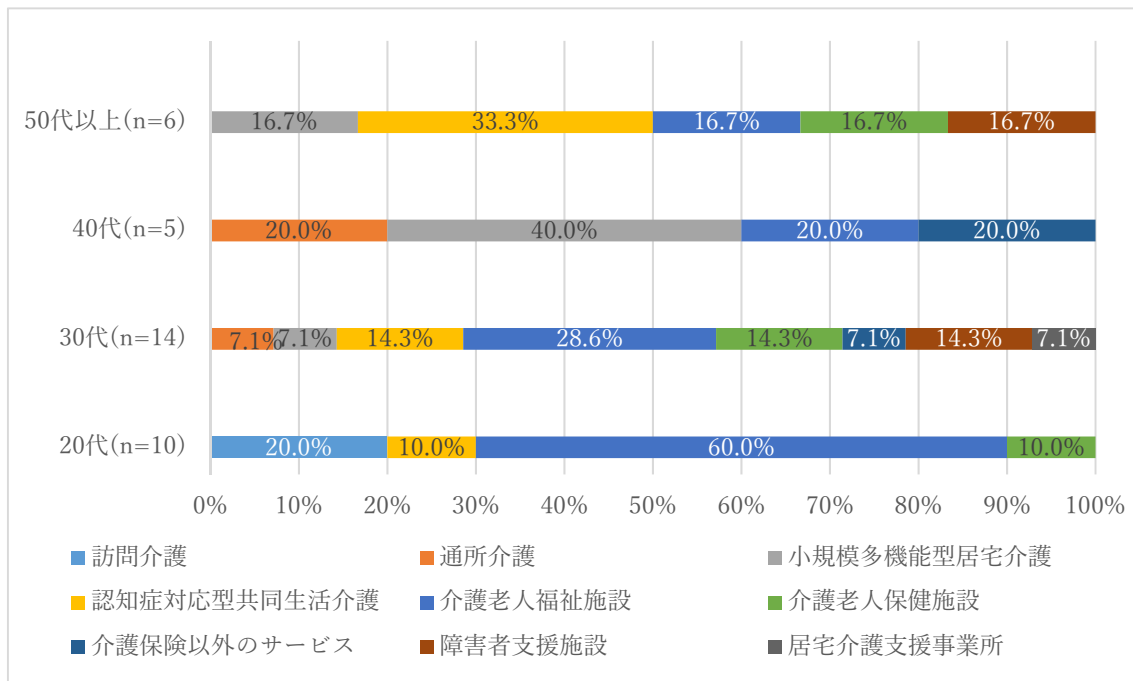


図2 施設種別（年代別） 以下、無回答者は除く

(3) 現在の雇用形態について

回答者数 37 人の雇用形態は、図 3 のとおりである。定年まで雇用される常勤職員が 20 代 7 人(70.0%)、30 代 14 人(100.0%)、40 代 4 人(80.0%)、50 代以上 4 人(66.6%)となっており、どの年代も「定年まで雇用される常勤職員」が半数以上を上回っている。

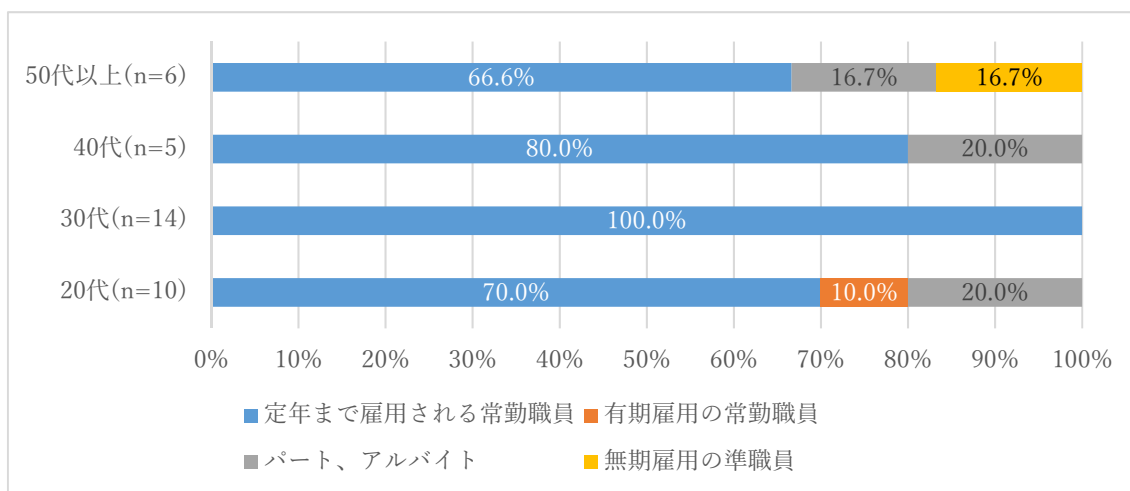


図3 雇用形態（年齢別）

(4) 現在の職位について

回答者数 37 人の現在の職位は、図 4 のとおりである。一般職が 20 代 9 名 (90.0%)、30 代 12 名 (85.7%)、40 代 4 名 (80.0%)、50 代以上 6 名 (100.0%) とともに多い結果となっている。主任やリーダーが 20 代 1 名 (10.0%)、30 代 2 名 (14.3%)、管理職が 40 代 1 名 (20.0%) となっている。

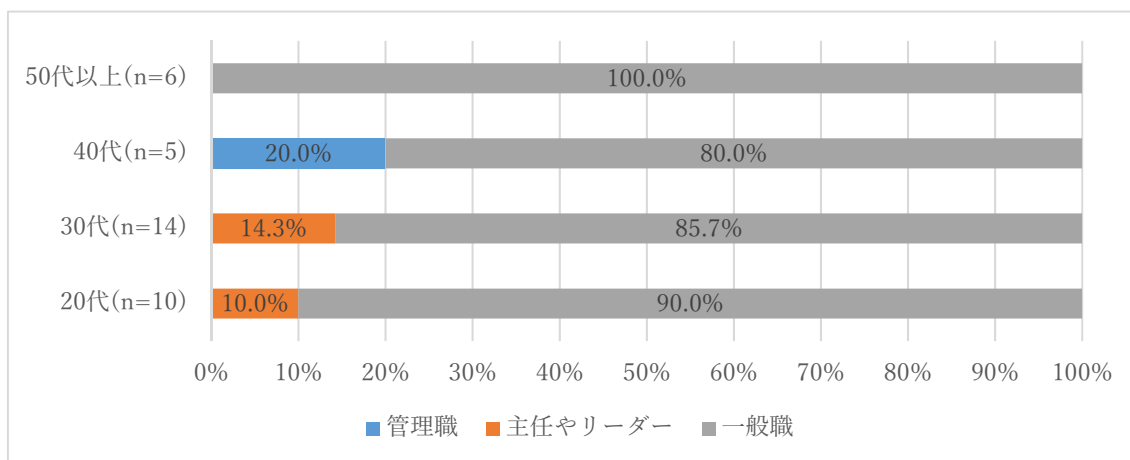


図4 職位（年齢別）

(5) 現在の仕事の満足度について

1) 日々の業務について

回答者数 37 人の日々の業務についての満足度は、図 5 のとおりである。20 代では、満足しているが 5 名 (50.0%)、どちらでもない 3 人 (30.0%)、満足していない 2 人 (20.0%) となっている。30 代では、満足している 8 人 (57.1%)、どちらでもない、満足していないともに 2 人 (21.4%) となっている。40 代では、満足していない 3 人 (60.0%)、満足している 2 人 (40.0%) となっている。50 代以上では、どちらでもない 3 人 (50.0%)、満足している 2 人 (33.3%)、満足していない 1 人 (16.7%) となっている。

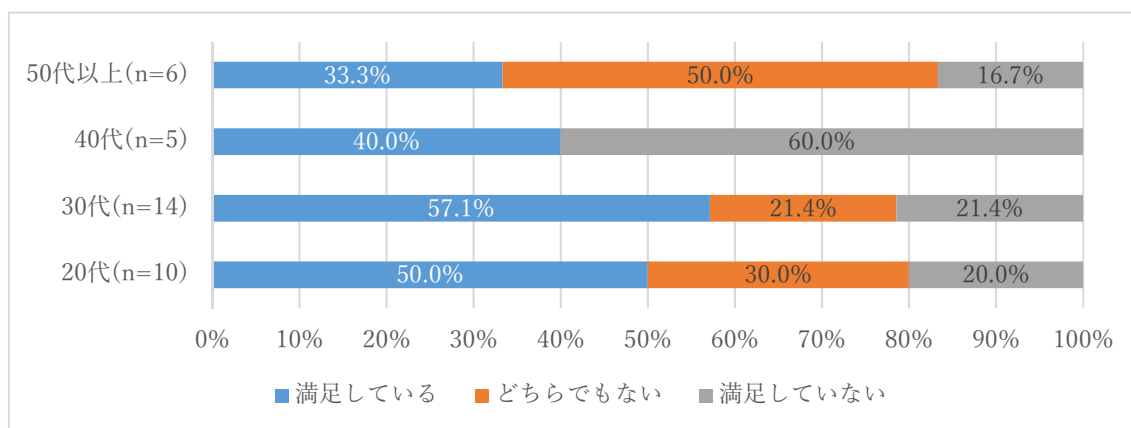


図 5 日々の業務についての満足度（年齢別）

2) 上司との関係について

回答者数 37 人の上司との関係についての満足度は、図 6 のとおりである。20 代では、どちらでもない 6 人 (66.6%)、満足していない 2 人 (33.3%)、満足している 1 人 (11.1%)、無回答 1 人となっている。30 代では、満足している 9 人 (64.3%)、どちらでもない 4 人 (28.6%)、満足していない 1 人 (7.1%) となっている。40 代では、満足していない 3 人 (60%)、満足している、どちらでもないともに 1 人 (20%) となっている。50 代以上では、どちらでもない 3 人 (50%)、満足している 2 人 (33.3%)、満足していない 1 人 (16.7%) となっている。

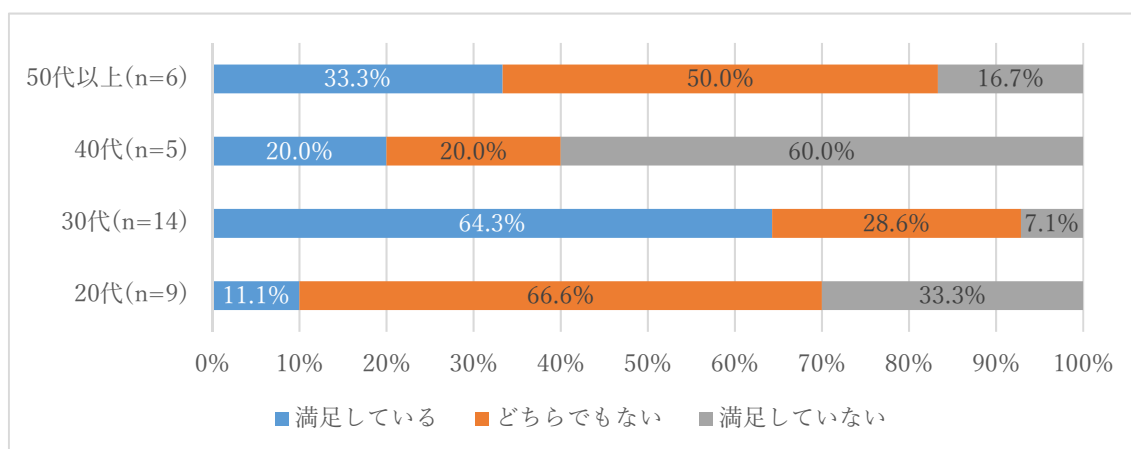


図 6 上司との関係についての満足度（年齢別）

3) 同僚との関係について

回答者数 37 人の同僚との関係についての満足度は、図 7 のとおりである。20 代では、満足している 6 人 (60.0%)、どちらでもない 3 人 (30.0%)、満足していない 1 人 (10.0%) となっている。30 代では、満足している 9 人 (64.3%)、どちらでもない 4 人 (28.6%)、満足していない 1 人 (7.1%) となっている。40 代では、満足している 3 人 (60.0%)、どちらでもない、満足していないともに 1 人 (20.0%) となっている。50 代以上では、満足している 3 人 (50.0%)、どちらでもない 2 人 (33.3%)、満足していない 1 人 (16.7%) となっており、どの年代においても満足しているが半数以上と多かった。

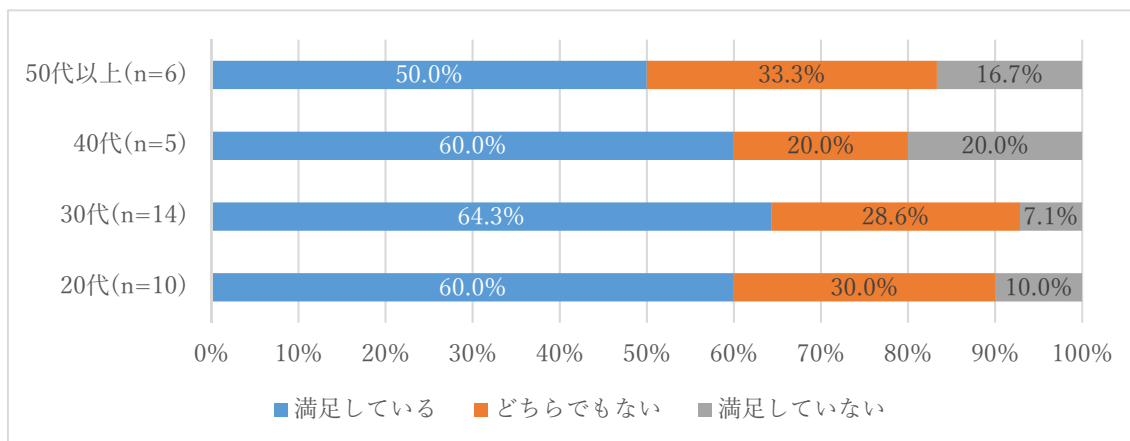


図7 同僚との関係についての満足度（年齢別）

4) 給与等の待遇について

回答者数 37 人の給与等の待遇についての満足度は、図 8 のとおりである。20 代では、満足していない 5 人（50.0%）、どちらでもない 3 人（30.0%）、満足している 2 人（20.0%）となっている。30 代では、どちらでもない 6 人（42.9%）、満足している 5 人（35.7%）、満足していない 3 人（21.4%）となっている。40 代では、満足していない 3 人（60.0%）、満足している、どちらでもないともに 1 人（20.0%）となっている。50 代以上では、どちらでもない 3 人（50.0%）、満足していない 2 人（33.3%）、満足している 1 人（16.7%）となっている。

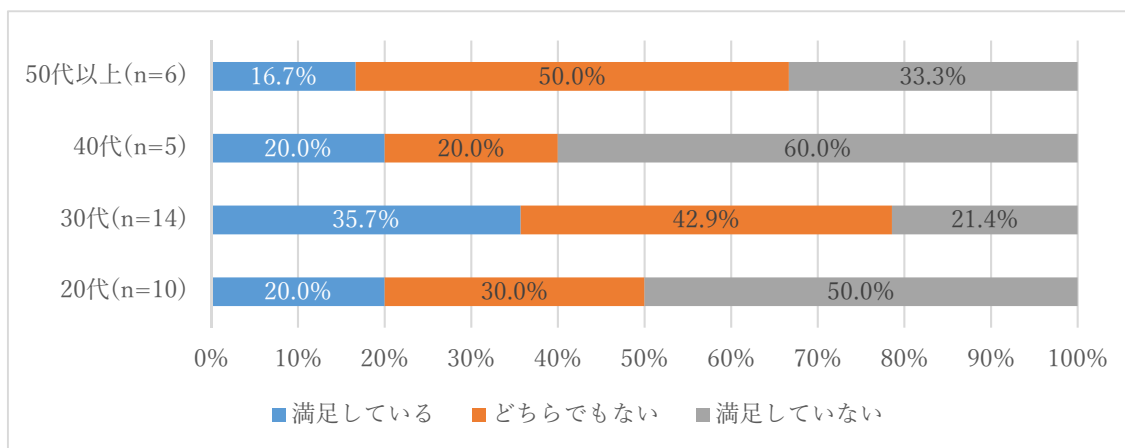


図8 給与等の待遇についての満足度（年齢別）

5) 勤務時間や休日について

回答者数 37 人の勤務時間や休日についての満足度は、図 9 のとおりである。20 代では、どちらでもない 4 人（40.0%）、満足している、満足していないともに 3 人（30.0%）、30 代では、満足している 8 人（57.1%）、どちらでもない、満足していないともに 3 人（21.4%）となっている。40 代では、満足している 3 人（60.0%）、どちらでもない 2 人（40.0%）となっている。50 代以上では、満足している、満足していないともに 3 人（50.0%）となっている。

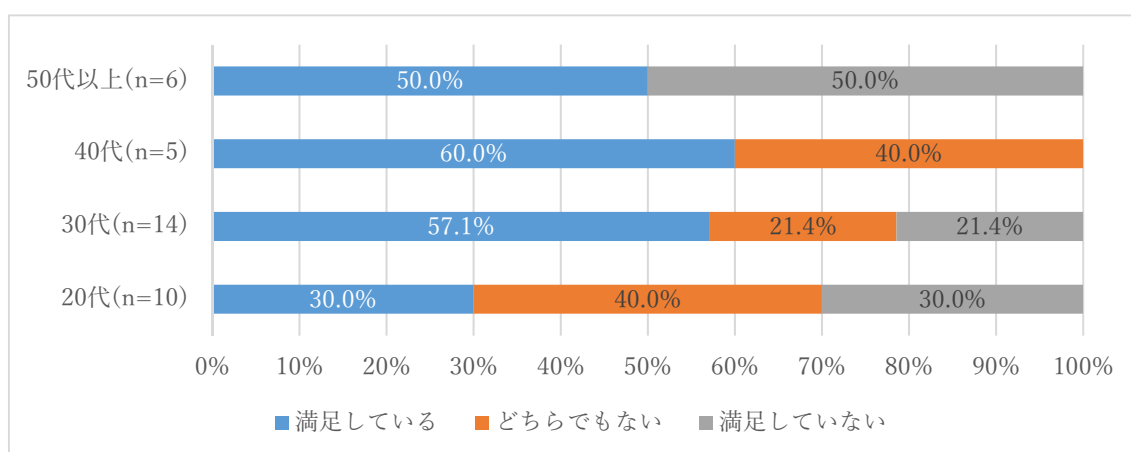


図 9 勤務時間や休日についての満足度（年齢別）

6) 総合的に

回答者数 37 人の総合的な満足度は、図 10 のとおりである。20 代では、満足している、どちらでもないともに 4 人（40.0%）、満足していない 2 人（20.0%）となっている。30 代では、満足している 6 人（42.8%）、どちらでもない、満足していないともに 4 人（28.6%）となっている。40 代では、満足している、満足していないともに 2 人（40.0%）、どちらでもない 1 人（20.0%）となっている。50 代以上では、満足している 3 人（50.0%）、満足していない 2 人（33.3%）、どちらでもない 1 人（16.7%）となっている。

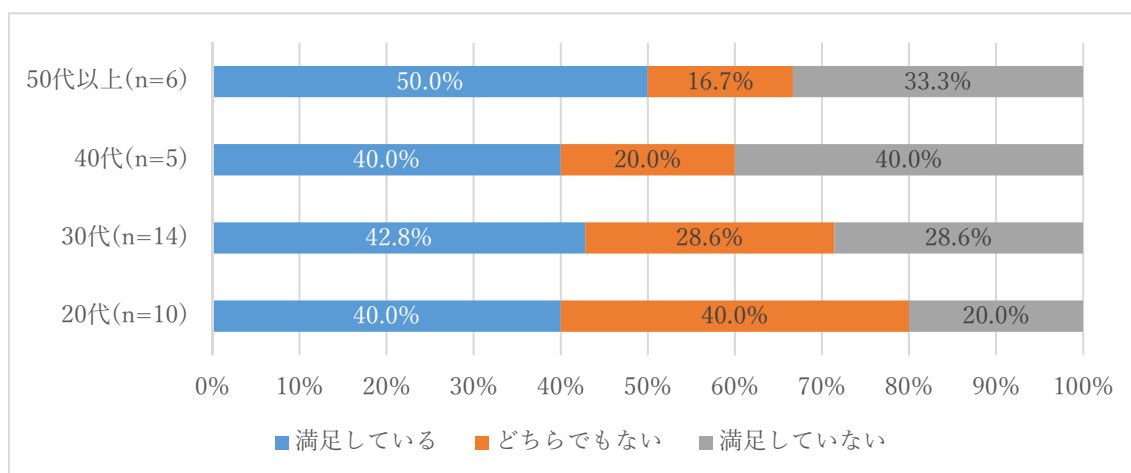


図 10 総合的な満足度について（年齢別）

7) 職員のスキルアップの支援について

回答者数 37 人の職員のスキルアップ支援についての満足度は、図 11 のとおりである。20 代では、支援してくれる 7 人（70.0%）、わからない 2 人（20.0%）、支援してくれない 1 人（10.0%）となっている。30 代では、支援してくれる 12 人（85.7%）、わからない 2 人（14.3%）となっている。40 代では、支援してくれる 3 人（60.0%）、支援してくれない 2 人（40.0%）となっている。50 代以上では、支援してくれる 5 人（100.0%）、無回答 1 人となっている。

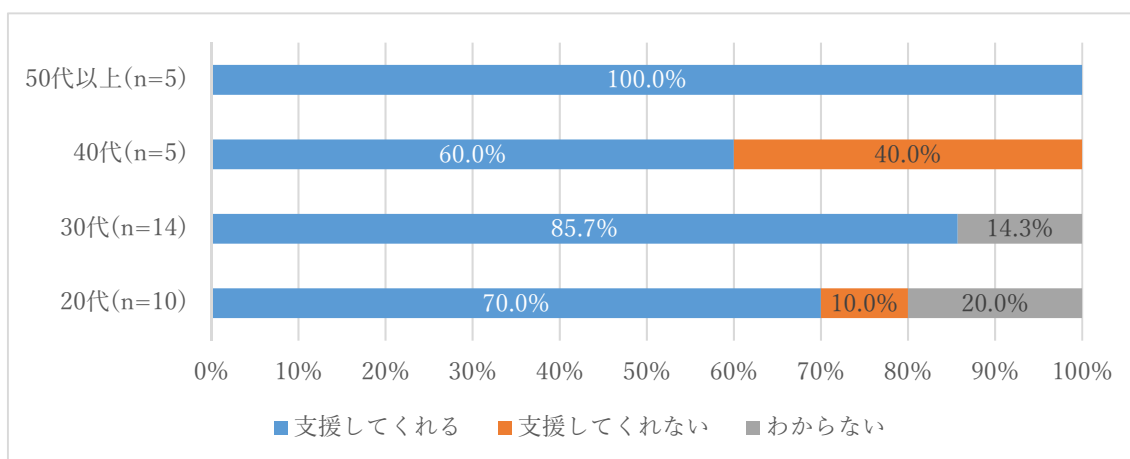


図 11 職員のスキルアップの支援について（年齢別）

8) 働きやすい職場について

回答者数 37 人の働きやすい職場についての満足度は、図 12 のとおりである。20 代では、そう思う 4 人 (40.0%)、そう思わない 2 人 (20.0%)、わからない 4 人 (40.0%) となっている。30 代では、そう思う 9 人 (64.3%)、そう思わない 3 人 (21.4%)、わからない 2 人 (14.3%) となっている。40 代では、そう思う 3 人 (60.0%)、そう思わない 1 人 (20.0%)、わからない 1 人 (20.0%) となっている。50 代以上では、そう思う 4 人 (66.6%)、そう思わない、わからないともに 1 人 (16.7%) となっている。

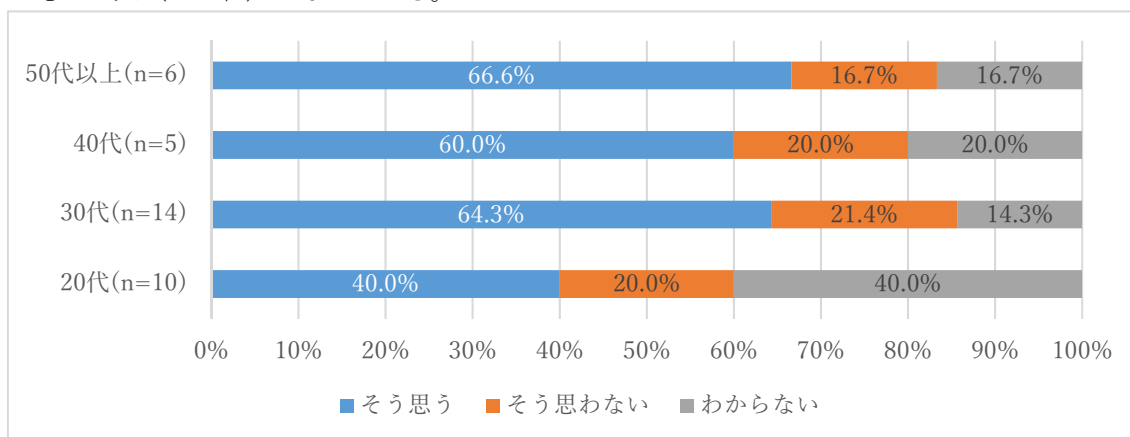


図 12 働きやすい職場についての満足度について（年齢別）

9) 業務改善の進める仕組みづくりについて

回答者数 37 人の業務改善の進める仕組みづくりについての満足度は、図 13 のとおりである。20 代では、あると思う 7 人 (70.0%)、ないと思う 2 人 (20.0%)、わからない 1 人 (10.0%) となっている。30 代では、あると思う 6 人 (42.9%)、ないと思う 1 人 (7.1%)、わからない 7 人 (50.0%) となっている。40 代では、あると思う 4 人 (80.0%)、ないと思う 1 人 (20.0%) となっている。50 代以上では、あると思う 3 人 (50.0%)、ないと思う 2 人 (33.3%)、わからない 1 人 (16.7%) となっている。

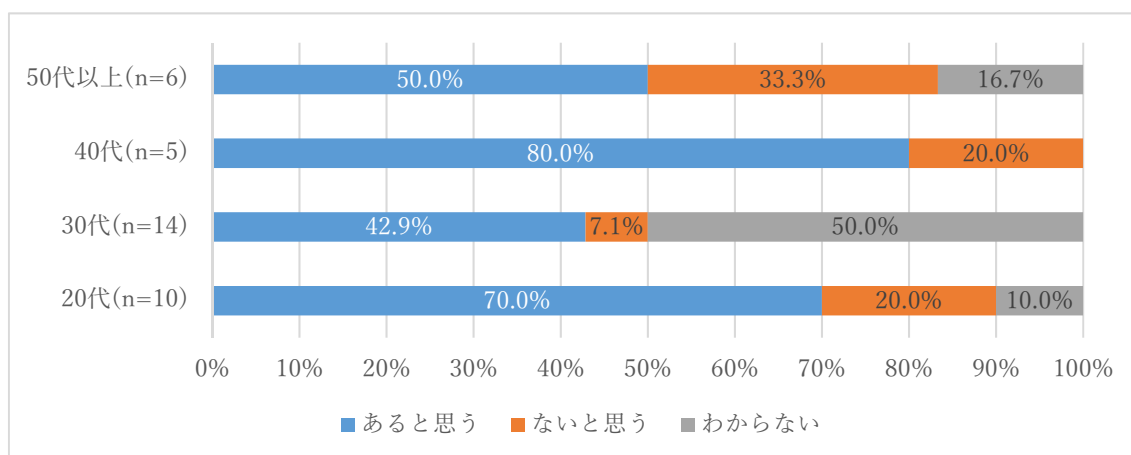


図 13 業務改善の進める仕組みづくりについて（年齢別）

10) 職員相互のコミュニケーションについて

回答者数 37 人の職員相互のコミュニケーションについての満足度は、図 14 のとおりである。20 代では、図れていると思う 9 人（90.0%）、図れていないと思う 1 人（10.0%）となっている。30 代では、図れていると思う 9 人（64.3%）、わからない 5 人（35.7%）となっている。40 代では、全員が図れていると思う 5 人（100.0%）となっている。50 代以上では、図れていると思う 4 人（66.6%）、図れていないと思う、わからないと思うがともに 1 人（16.7%）となっている。

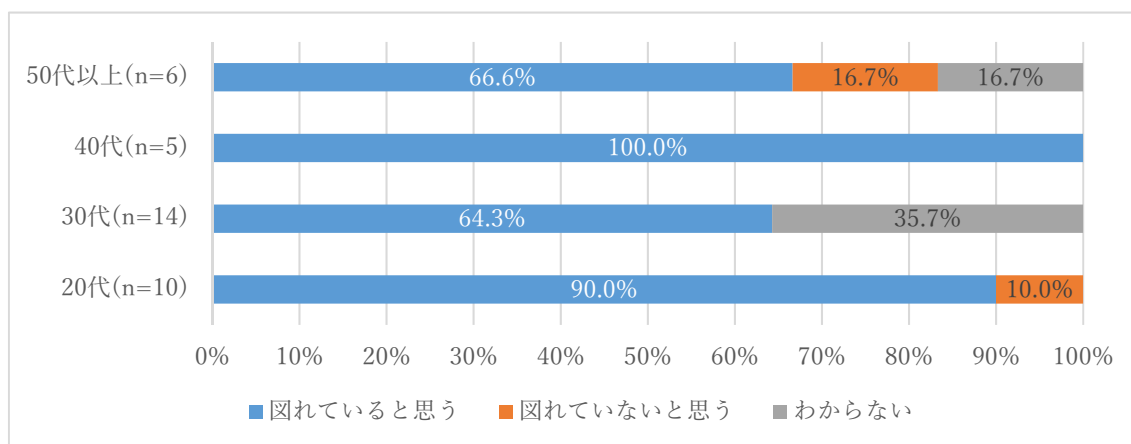


図 14 職員相互のコミュニケーションについて（年齢別）

11) 全体でみた現在の仕事の満足度

回答者数 37 人の上記の 1) ～10) までを全体でみると、図 15 のとおりである。日々の業務について、同僚との関係について、職員のスキルアップ支援、働きやすい職場、業務改善の進める仕組みづくり、職員相互のコミュニケーションは半数以上が、満足していると評価が高い結果となった。

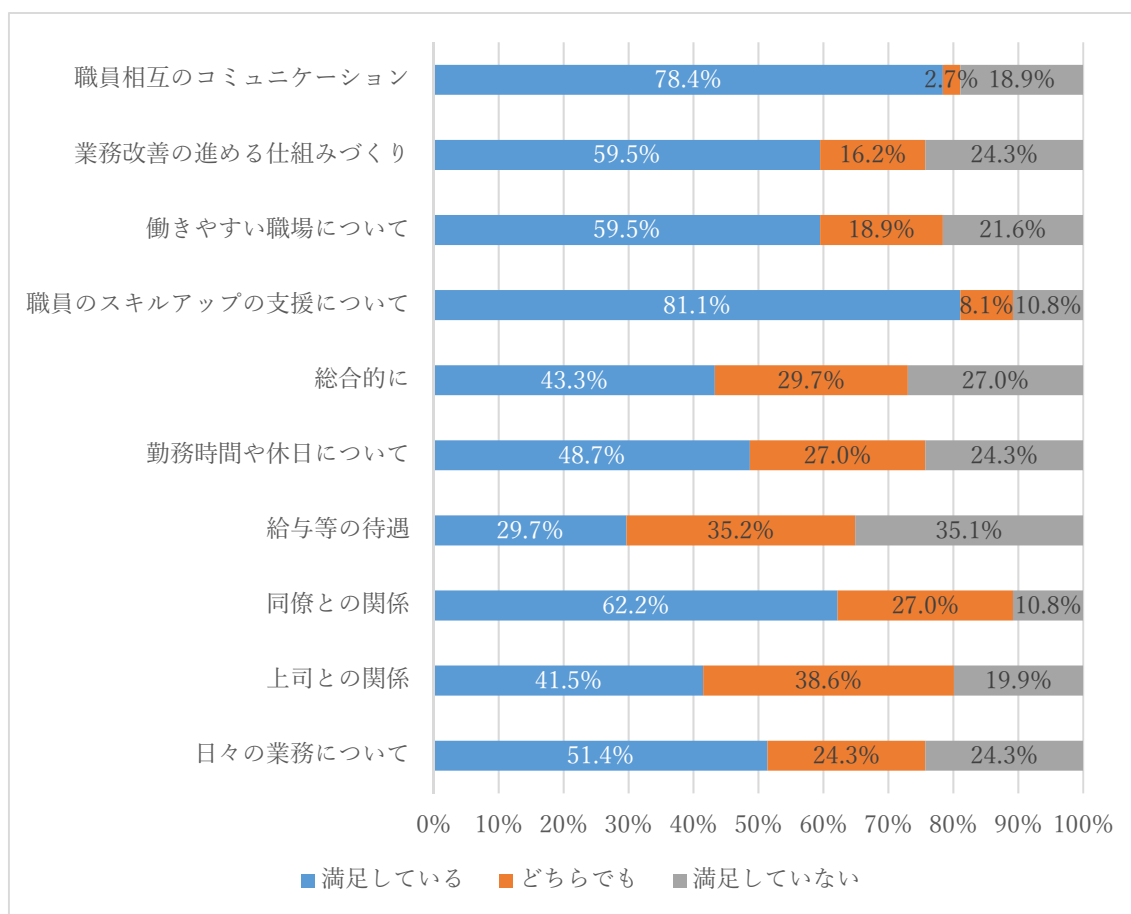


図 15 全体で見た現在の仕事の満足度

(6) これからも介護の仕事を継続したいか

1) 継続したいか 継続したくないか

回答者数 37 人のこれからも介護の仕事を継続したいかは、図 16 のとおりである。これからも介護の仕事を継続したいが 28 人 (80.0%)、継続したいと思わない 7 人 (20.0%) となっている。8 割の人がこれからも介護の仕事を継続したいと思っている。

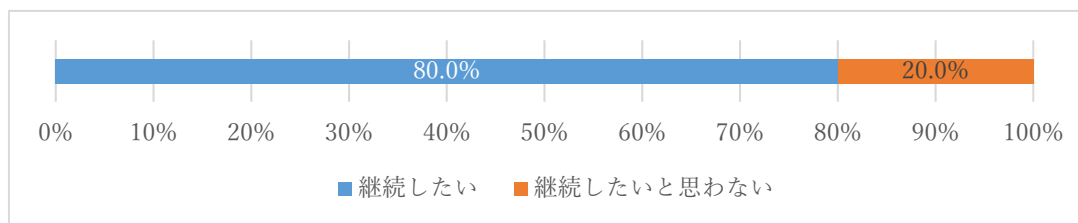


図 16 これからも介護の仕事を継続したいか、継続したくないか

2) 理由

「継続したい、継続したくない」理由について、具体的な記載を求めたところ、表 6 のとおりの回答があった。(明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま)

これからも介護の仕事を継続したい理由には、介護の仕事が好きだから、スキルアップができ

る、やりがいを感じているという内容の記載があった。また、継続したいと思わない理由には、身体的にきつい、変則勤務による家族への負担、給料の減少という内容の記載があった。

表 6 「継続したい、継続したくない」の理由（原文のまま）

（継続したい理由）

- ・日々の仕事、業務の中で学びを得ていると感じます。軽度～重度、認知症の方も様々いて、対応の仕方など勉強になっているからです。
- ・これからも需要が高い職業だと思うから
- ・利用者様との関わりに楽しさを感じ、笑顔で過ごせることが多いから
- ・自身のスキルアップに繋がり、自分に合っている職業だと感じている。
- ・今の仕事（職場）で人間関係も良好でキャリアがある事で安心して不安なく働けている。
- ・利用者との関わりで一緒に活動を行ったり、何かを作ったりする楽しさや、会話の中で利用者さんから学びを得ることができること
- ・他の業界に手を出す勇気がない
- ・自分自身のスキルアップにも繋がるから。介護の仕事が好きだから
- ・介護の仕事が好きだから
- ・介護の資格を得て今まで働いてきた為、今後も生かしていきたいと考えているため
- ・現在の職場は重症度が高いため、利用者から直接言葉をいただくことはほとんどないが、ご家族から“ここの施設に入居させて良かった”と言ってもらえるとやりがいを感じる事ができるから
- ・資格を持っているから。自分には介護の仕事が合っていると思うから
- ・年齢を重ねても必要とされる仕事だと思うから
- ・継続したいと思っていますが、体力・気力ともに不安があります。もう無理かなと思うまで続けたいと思っています。
- ・持っている資格を活かしたい
- ・利用者さんや職員の方々とも良好な関係を築けているから
- ・コミュニケーションを取るのは苦手だけど、お年寄りの方と関わるのは好きだから。ただ腰痛持ちだから悪化しなければ続けたい。
- ・資格を活かせる（手当て有）、この10年間で責任者（管理職）になった経験があり楽しさを知った。転職してからも上に立てるように努力をしているため今後も継続して頑張りたい。利用者やそのご家族の背景・思いを受け、施設で働くことの重要性をわかっているから人手不足と言われる介護業界で活躍していきたい。
- ・大変ですが、やりがいはあります。
- ・自分の体とか年齢で続く限り働きたい
- ・今の職場は体力的にきつい、家の近所だということでなんとか辞めずに仕事をしている現状です。利用者の人数が多いこともあり、一人一人に関わることが難しく業務におわれる毎日です。小規模の事業所への転職を考えています
- ・子育てと両立しやすいので
- ・現在勤めている施設がとてもやりがいを感じる所のため。
- ・自分の年齢を考えると新しく覚えたり…ということはむずかしく感じる。現在の職場では、頼ってくれる利用者様もいるので、継続していきたい。後輩が一人前と呼ばれるまでは見守

っていききたいという思いもあるため継続していききたいと思う。

- ・自分に合う仕事は、福祉業界しかないと思っているので、これからも続けると思います。また、自分で起業したいと思っているので、いろんな情報を吸収したいので続けて行くと思います。

(継続したいと思わない理由)

- ・ずっと介護の仕事をしていますが、違う職種の仕事も経験したいと思うこともある為、継続したいとは思わない
- ・継続したいと思わないけど、新しいことを1から勉強するのが大変なので、とりあえず継続しているだけです。
- ・介護福祉士のレベルアップだと思い介護支援専門員の資格を取得したが、仕事内容が難しく処理しきれない状況。24時間365日仕事に縛られ、土日休日返上で仕事をしている現状。責任感は重大となっているにも関わらず介護福祉士時代よりも給料が激減。プライベートの時間は削られ精神的にも身体的にも経済的には継続は難しい。
- ・自分に介護の仕事はあっていない為
- ・身体的にきつくなってきている。(夜勤、コロナ感染(クラスター)等)
- ・変則勤務による家族への育児負担。育児に参加が出来ず、出来ていた子どもの寝かしつけが出来なくなってしまった。
- ・給料の減少と充実さに欠けている。(コロナ)

(7) 介護の仕事の「やりがい・魅力」

介護の仕事の「やりがい・魅力」理由について、具体的な記載を求めたところ、表7のとおり
の回答があった。(明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま)

介護の仕事にやりがい・魅力を感じる理由について、「ありがとう」と感謝されること、利用者の笑顔を見れる、臨機応変、柔軟に行動できた時、コミュニケーション能力の向上ができるという内容の記載があった。

表7 「やりがい・魅力」の理由 (原文のまま)

- ・利用者との1日を通していく中で、生きがいになっているんだと感じる場面もあります。楽器をやっていた方で持参される方もいます。1人1人のそれぞれ好きなこと。勤めて年数は経過しますが、対応に悩むことも日々あります。利用者とのコミュニケーション活動を通して笑顔を引き出せた時には自分もうれしくなります。嫌なことだけではなく、楽しいこともあります。
- ・人から「ありがとう」と言ってもらえる。人の役に立ててる気がする。
- ・利用者の方に感謝されたとき
- ・ちょっとした気づきが利用者様の生活の支えになっていることを実感できる。
- ・様々な人間模様が見え、1人ひとりに合う関わり方があり、やりがいを感じる
- ・利用者の日常支援を行う中で、たわいもない会話やゆったりとした時間(テレビみる、お話、行事)に見える表情、笑顔にいやされる。
- ・家族との関係が良好に保たれる事で、ありがたい言葉をかけて下さる。

- ・利用者様の笑顔を見たとき。
- ・利用者の小さな変化に気付くことができ、早急に対応し常に周りを見て動けることが自分自身が成長し、スキルアップにも繋がっていると感じる
- ・ありがたいと言われたり、大変なことを乗り越えた時によかったと思う
- ・入所者、家族に感謝していただけること
- ・利用者の生活をよりよいものにするお手伝いができること。誰かの人生に深く関わることができること
- ・コミュニケーション力が身につく。その理由として 40 才位までデスクワークだった。とてもコミュニケーションが苦手だったが、今はそんなに苦手と思わなくなりました。
- ・入居者の方とコミュニケーションをとれた時や笑顔が見られたときに嬉しくやりに繋がっています。
- ・今はまだ生活の為
- ・誰でも年をとり、介護が必要となることもあると思います。そういう時に心のある介護ができたり、受けられたりすることは幸せなことだと思います。母はヘルパーをしていましたが、とても心のある仕事をしていたようで退職してから家族の方にあの頃は本当にお世話になりました。と感謝されています。私は真似できないと思いますが、そういうところではないかと感じます。
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・支援中のコミュニケーション、笑顔
- ・利用者さんが見せる生活に満足していそうな様子を見て、日々の業務を続けていこうと思える。
- ・自分より目上の方と関わると色々学ぶことができる。感謝の言葉を頂けるだけで「やってよかったな」と思う。
- ・コミュニケーションの積み重ねで相手との距離が縮まり支援を行いやすくなる。会話も楽しくなる。そういったものを感じられるとやりがい、楽しみを覚える。
- ・1 人で生活できない方が安心して暮らせるように支えている私達に誇りをもって必要とされているということにやりがいを感じる。それは利用者からだけではなくそのご家族からも感謝や喜びを伝えてもらえるから
- ・利用者さんに「あんたがいなくてさみしいよ、きのうは休みだったの？」と言われたとき、もう少し頑張ろうかなと思えるくらい嬉しい
- ・利用者さんに可愛がられる(孫世代のため)
- ・高齢者と関われる一番の職種であること。お礼の言葉をいただける。
- ・利用者様からの「ありがとう」ご家族様から「いつもありがとう」といわれるとこの仕事を続けていて良かったと感じる。うまく話せない利用者様から「にこっ」と笑われたらそれは障害の事業所にいる職員としてはとても嬉しい出来事です。
- ・職員はとても仲が良いが、人員不足によりなかなか大変になってきている。流れ作業にどうしてもなってしまう。コロナなど感染症がでるとマニュアルをもとにいろいろやっているが、やっぱり人相手なのでそこは楽しいと思う。行事など、やり方を変えながら行っているが楽しい。
- ・本人の笑顔を見る事が一番の魅力で、その笑顔を引き出すのに家族や事業所、多職種と連携

を取れることで、やりがいを感じます。特に困難事例だったりすると、余計に密に連携を測る必要があるので、自分のやる気にもつながります。

3 介護福祉職から離れている方

現在、介護福祉職として働いていない方は、52 人中回答者 18 人であった。(3 名が現在介護福祉職に勤務、介護福祉職から離れている方どちらにも記載があった)

(1) 離職の理由

回答者数 16 人の離職理由は、図 17 のとおりである。多いものとして、職場の人間関係に問題があったため、自分に向かない仕事だったため、他に良い仕事・職場があったためが 4 人、新しい資格をとったからが 2 人であった。(無回答者 1 人)

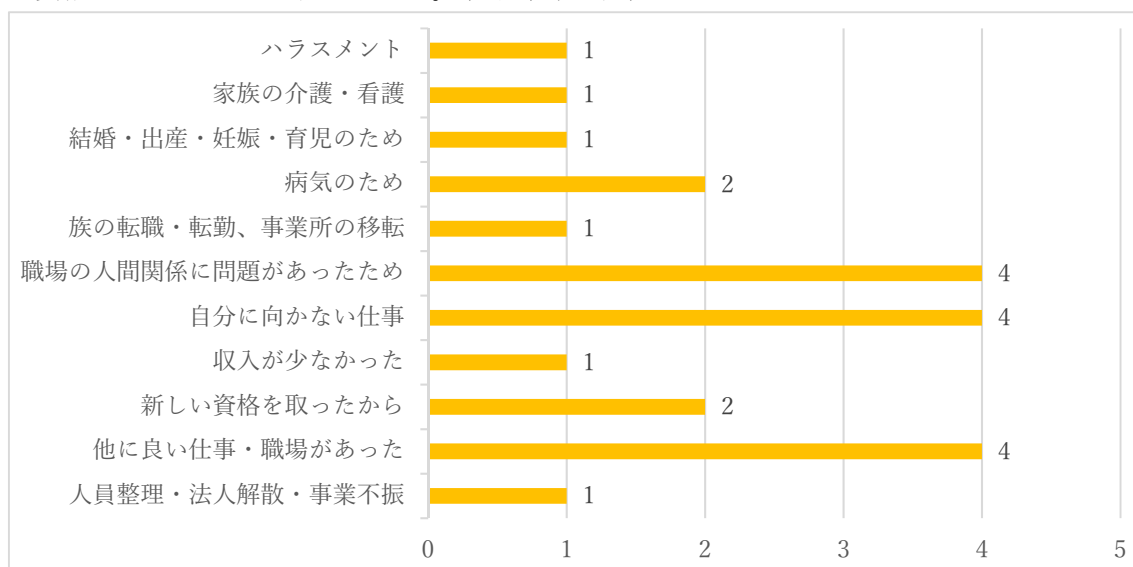


図 17 離職の理由

(2) 介護福祉職に復職したいと思うか

回答者数 16 人のうち、介護福祉職に復職したいと思うかは、図 18 のとおりである。復職したいが 5 人 (35.7%)、復職したくないが 9 人 (64.3%) と復職したくないが 6 割であった。(無回答者 2 人)

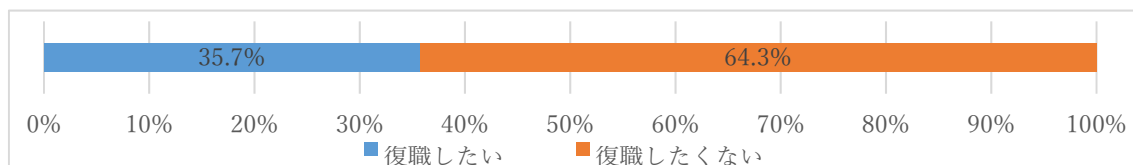


図 18 復職したいか

4 介護福祉士養成校について

(1) 介護福祉士養成校に入って役に立ったこと

回答者数 53 人のうち 43 人から回答があった。(無回答者 10 名)

1) 役に立った科目

回答のあった 43 人のうち、役に立った科目は、図 19 のとおりであった。

コミュニケーション関連科目（コミュニケーション技術、人間関係とコミュニケーション）が 12 人、認知症の理解が 11 人、介護実習が 10 人、生活支援技術・介護過程が 9 人、医療的ケア・介護の基本が 7 人、介護総合演習 4 人、人間の尊厳と自立が 3 人であった。

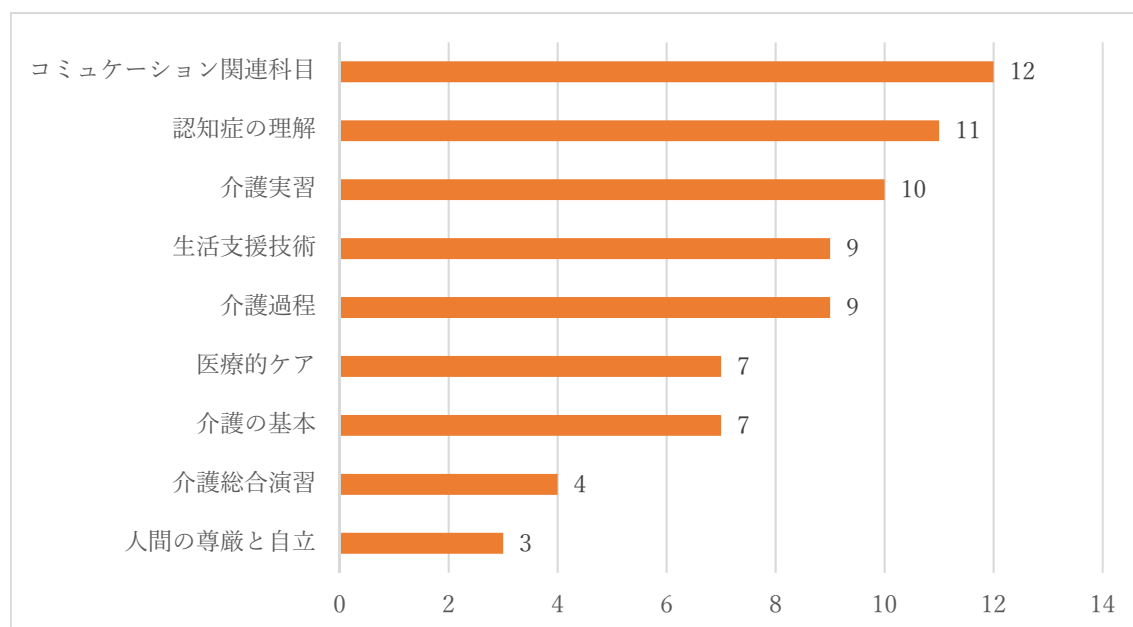


図 19 介護福祉士養成校で役に立った科目

(2) 介護福祉士養成校で学んだことに意味はあったか

1) 意味があった、なかった

回答者数 52 人のうち、介護福祉士養成校で学んだことに意味があったかは、図 20 のとおりである。意味があったが 49 人（100%）、（無回答者が 3 人）で回答した者全員が介護福祉士養成校で学んだことに意味があったと答えている。

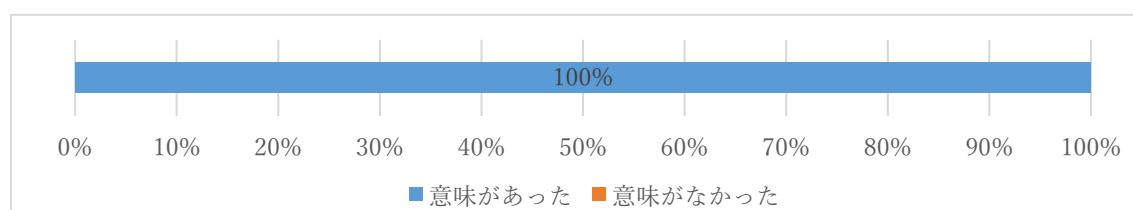


図 20 介護福祉士養成校での学びに意味はあったか

2) その理由

「介護福祉士養成校で学んだことに意味があったか」理由について、具体的な記載を求めたところ、表 8 のとおりの回答があった。（明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま）

新たな知識の習得、様々な技術の基本を理解できた、資格取得ができた、介護実習を通して就職前に様々な介護施設を理解することができた、自分自身と向きあうことができた、同じ志をもった仲間と過ごせたという内容の記載があった。

表8 「介護福祉士養成校で学んだことに意味があったか」の理由（原文のまま）

（あった理由）

- ・今までなかった知識を学ぶことができた
- ・仕事するうえで学んだことが役立っているから
- ・資格をとれたから
- ・実習を経験することで卒業後の自身をイメージしやすくなる。こうなりたいという思いが明確になる。
- ・介護の現場を知ったことで、看護師を目指すことができた。
- ・1ヶ月実習は辛かったが、実際の現場を見て経験して乗り越えたからこそ就職後も大変なことはたいてい乗り越えられたと思う。
- ・介護福祉職を離れていますが、現在も役立っていることが多々あります。介護の仕事をしていた時も知識があったことで利用者に関わる時に助かることが多くありました。
- ・介護士としての基礎を学べ、社会人になってからも学びを活かすことができた
- ・基本的なものは変わらない為
- ・介護支援技術や認知症の理解などは介護で働く上でとても大事なので養成施設で学び仕事に活かすことができています。
- ・30～50代の方の意見が聞けて参考になった（人生相談もしました）
- ・自分自身と向き合うことができたこと。バイステックの7原則、統制された情緒的関与を知ることができた
- ・実際に実習を体験していただき、授業で得たことと照らし合わせて、より知識を深めることができた。
- ・基本があるのとないのでは違う。根拠ある事を学ぶことができた
- ・人間関係、尊厳、身体のおしくみ、認知症関係を学んで役立った。介護的な心で考えることをみにつけることもできたと思う。基本的なことを学んでから就職できたから3ヵ月くらいで仕事に慣れた。すぐ頭に入った。ストレスも少なかった。
- ・より介護についての知識を深めることができ自身の学びにつながった。
- ・2年間という長期間で学ぶことで、介護技術だけではなく深いところまで理解することができた。同じ志を持った人達と同じ目標に向かって励ましあって進んでいけることが力強かった。
- ・介護の仕事はしていないけど、身近に介護状態の人がいるので勉強して良かったと思います。
- ・知識がある状態で働くことができたので良かった。実務経験のある講師の話は、当時学びが多かったように思う。
- ・仕事の流れややり方等は人・施設それぞれ違うと思いますが、基礎的なことを学校で学んでおいて良かったと思います。（オムツ交換、移乗、走行式リフト、スライドシートの使い方等）
- ・6年目にはケアマネの資格を取得できました。資格手当が上がりました。就職して1年目から介護福祉士があるのは誇らしく思えました。
- ・コミュニケーションの授業により、目の前の相手は自分を映す鏡だと教えられた。忙しくても笑顔を崩さず目線を合わせ、優しい口調の介護士には笑顔で応答する人も多く、利用者からそばに来ることが多かった。余裕なく、マスクしてください！お風呂行きますよ！など口

調が強い介護士の前では陰しい顔をする、無視する、怒り返す方もいた。なるほどこれが鏡か、と思いそれから優しく見える職員を観察してのコミュニケーション時の口調や表情を真似するようにした。すると「いつも笑顔で来てくれてうれしい」と言っていた。

- ・利用者の人の意思を尊重して、コミュニケーションを取ることが大切でちゃんと名前を呼んで接すること
- ・実際に働いて基礎的なものを学校で学んでいたおかげで仕事上で説明をされてもスムーズに理解ができ、自分のやり方を見出すきっかけを作ることができた
- ・介護とは技術よりも人間関係、信頼関係が大切なことだと3年目ころから実感できるようになりました。
- ・人は支え合って生きているんだなと実感できた。そして支え方には色々あるからちゃんと学ぶことが大切だと知りました。
- ・人間関係のつくり方やコミュニケーションのとり方
- ・色々な知識を役立てる場面が多かった為
- ・しっかりした知識が身についている
- ・ある程度の介護施設や実習が無かったら、自分自身にとってこの仕事を継続することは困難だったと思う。
- ・実習を行うことで、コミュニケーションの上達、色々な施設を見ることで就職先を決めやすくなる。
- ・実際に祖母の状態から高齢者の知識等を学習出来るので非常に良かったです
- ・実習という形で実際に施設で業務に携わることができるし、職場の雰囲気を知れるため自分が得意なことや興味があることなど知れる。授業で文字や言葉で学んだあとに実践することで身につけやすい。定期的に小テストなどをする機会があるため、まわりとの競争？もあってレベルアップに繋がる。
- ・資格取得に向け学生同士切磋琢磨した経験はとても有意義な時間でした
- ・利用者とのコミュニケーションや記録をまとめることの実践になりました
- ・現在まで同じ職場で継続して働くことができているし、専門的知識を取得したことで自分が落ち着いて仕事ができると思う
- ・根拠を調べたり、いまだに生活支援技術の本を開くことがあります。
- ・介護の基本をきちんと学べたので、あまり困らずに働けています
- ・学んだことを活かして、今夫を介護しています
- ・知識、技術が学べて意味があった。実習などを通して実際の介護とはどういうものか学ぶことができた。
- ・色々な出会いがあり生き方とか将来の話をきくことができた。
- ・人の向き合い方に変化があったと感じています。学びを通して私自身の人生に変化がありました。あの2年があったからこそ、現在も福祉から離れてないのだと思います。
- ・とても充実して濃い2年だったと今でも思います。当時の主任の先生と担任の先生がとても厳しくて、「なんでこんなに厳しいんだろう。苦しい」と思っていました。あの先生方に教えてもらえたので、今の自分があると心から思います。介護の事だけでなく看護の目線からも教えてもらえたので、感謝しかありません。

(3) 卒業後、本学に期待すること

回答者 52 人のうち卒業後、本学に期待することについて、図 21 のとおりである。研修会の開催が 14 人、最新の情報共有に 12 人、卒業生との交流に 9 人、教員との交流と交流会の開催が 7 人、悩み相談が 6 人となっている。（無回答者 14 人）

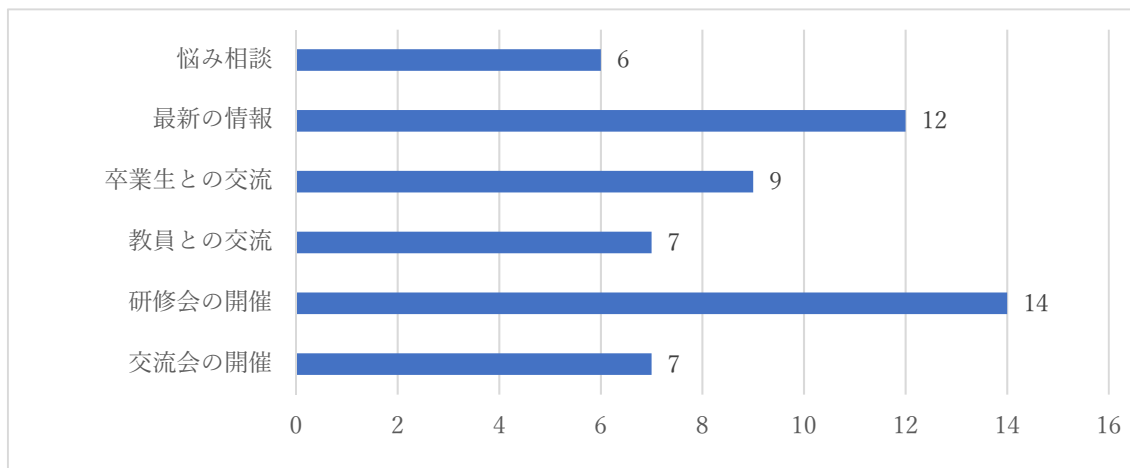


図 21 卒業後、本学に期待すること

5 その他

(1) 自分の子どもに「介護」の仕事に就職してほしいと思うか。

1) 就職してほしいと思うか思わないか

回答者 52 人の自分の子どもに介護の仕事に就職してほしいか回答をもとめたところ、図 22 のとおりになった。（無回答者 10 人）就職してほしいと思うは 9 人（21.4%）、就職してほしいと思わない 33 人（78.6%）と思わないが約 8 割となった。

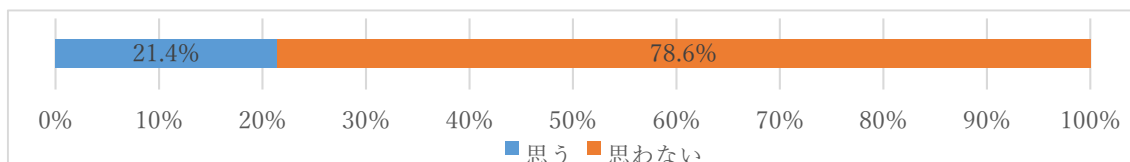


図 22 自分の子どもに介護の仕事に就職してほしいと思うか

2) その理由

「自分の子どもに介護の仕事に就職してほしいと思うか」の理由について、具体的な記載を求めたところ、表 9 のとおりの回答があった。（明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま）

就職してほしいと思う理由に、人との関わりの中で学ぶこともあるから、やりがい・魅力を感じる仕事であるから、安定した仕事だから（給料面、社会情勢）があがっている。就職してほしいと思わない理由に、やりたい仕事に就いてほしい、介護職のイメージが良くない、安定していない（給料面）、体力的にやめたほうがいいという内容の記載があった。

表 9 「自分の子どもに介護の仕事に就職してほしいと思うか」の理由（原文のまま）

（思う理由）

・人と関わるのが好きであれば様々な話も聞けるし、色々な人との関わりの中から学ぶことも

多い仕事なのでおもしろいと思います。

- ・ やりがいを感じる仕事ではないかと感じている為
- ・ 今は処遇改善手当など、どんどん良くなっているため、身体が丈夫であれば良いと思う。
- ・ 自分の子どもが興味を持ち「介護職」に就きたいと話すのであれば応援し支えたいと思います。苦労や困難が多い職種ではあるが、“誰かの役に立てる”、“命を守る仕事”は本人にとっても財産になるし成長できる(福祉の心)と思うからです。子どもが働く歳になる頃には手当や環境がもっと充実して欲しいです。
- ・ 娘も同じく介護福祉士の資格を取って現在、病院で働いている。安定企業であり、働きがいがある。しかし年々腰痛など体力面で不安もあるができる限り働きたいと話している。
- ・ 介護職はとても魅力的な職業で、様々な知識が必要なので、どの職業よりも大変というイメージがありますが、笑顔や意欲を引き出せるととても素敵な職業なので、介護にまつわる職業に就いて欲しいです。
- ・ 自分が決めたことなら応援してあげたいと思う。
- ・ 子はいませんが、もしいたら… 就職まではいかなくても人に手を差し出せる人になってほしいです。

(思わない理由)

- ・ 好きなことをすればいいと思います。
- ・ やりたいならやってもいいが、特に介護の仕事をやってほしいとは思わない
- ・ 自分と同じいじめやハラスメントにあって欲しくない！
- ・ 自分のやりたいことをしてほしいから
- ・ 今は正直、介護職のイメージが良くない。今後の動向次第で…という所はある
- ・ やりたい仕事についてもらえればいいが、男の子だと給料面の心配あり
- ・ 自分が1番。無理やりは良くないので、やりたいことがあったらとことんやってほしい。
- ・ 介護という仕事はとても楽しいが、大変なことも多い為、おじいちゃん、おばあちゃんが好きなのであれば勧めたいが、そうでなければ勧めない
- ・ とんでもない方が入所してきたら、すぐ辞めたくなる。とにかく利用者と職員両方からのストレスが多い。
- ・ 本人が決めること
- ・ 自分の子どもにやりたい仕事をやらせたい
- ・ 誰でもできる仕事というイメージがある。本当は色々考えたり奥が深い物だが社会的に理解されていない。
- ・ 身体をこわすから、やめたほうがいい。夜勤もあるから大変。
- ・ 結婚の予定がないためわからない
- ・ 親の影響などではなく、自身で進むべき道を選択して欲しい。
- ・ 「思わない」と選んだけど。でも今後「介護」が増えていくので知識だけでも教えてあげたいと思いました。
- ・ 希望するならば否定はしないが、すすめはしない。求人はそれなりにあり就職に困ることはないだろうが仕事内容と収入が見合わないと思う。パートタイムなら別だが家庭ができたときキツイかと…。
- ・ 好きなのであれば就職しても良いと思うが、そうでなければ自分の身体を大事にしてほしい

です。

- ・自分の子どもも腰や人間関係でつまずいたり、痛めたりしたら大変だからです
- ・とてもいい仕事でやりがいがあると思いますが、働く環境において重労働・低賃金ということがまだまだ課題に上がっているとおもうので、そこが今後改善されていくのであれば子どもには働いてほしいなと思います。
- ・話が合う合わないがあるし、人も合う合わないがあるので就職してほしいとは思わない
- ・もっと良い職がたくさんあるから
- ・単身だといいが、子育てしていくには賃金が低い
- ・特に思わない。進みたい道と動機があれば応援する。
- ・どうしてもやりたいと思っていないとさすがに進められない
- ・介護職に対する地位が低い（給与面やイメージ）
- ・体力的にきつい仕事で給料が見合っていないから
- ・給料が安い、頭を使わないと長く働けない。人間関係を作らないとうまく働けないから
- ・介護人材が不足していく中で更に労働が厳しくなるから
- ・自分はこの道で合っているのが良いですが、子どもにそれを強要は出来ないと思うからです。人間を扱うので、本人の性格だったり、向き不向きがある仕事だと思うので、就職してほしいとは思いません。
- ・まだわかりません。自分が腰痛持ちなので、なんともです。
- ・本人が介護職を希望すれば応援するが、正直おススメはしないと思う。処遇改善を期待する、仕事内容自体はとてもやりがいがあり良いと思う。
- ・以前看護師として老健で働いていたが、介護士は給与が低く仕事量に見合っていないように見えた。時代的に難しいかもしれないが、その面が改善されたら勧められる職業になると思う。
- ・子どもには子どものやりたいことをやってほしいです。

6 介護福祉士養成校の学生にメッセージ

「介護福祉士養成校の学生にメッセージ」を求めたところ、表 10 のとおりの回答があった。（明らかな誤字や脱字を除き、原文のまま）

表 10 介護福祉士養成校の学生にメッセージ

- ・嫌とか汚いイメージあるかもしれませんが、日々の生活で楽しいこともありますし、学びを深めます。技術も身につきますよ。ぜひ、一緒に働いてみませんか。
- ・今は大変で辛いかもしれないけど、のりこえればきっと自分の力になる、役立つ、1度辞めても戻ってこれる。色々経験して自分の強みにして、ゆっくり自分のペースで頑張れば良いと思います。後輩よ fight！！
- ・ノーリフティングや眠りスキャンなどの設備やシステムが整っているところに就職したほうが良いと思います。
- ・介護職はやりがいのある尊い仕事だと思います。大変なこともあると思いますが、それ以上の喜びもあります。ぜひ頑張ってください！！

- ・頑張りすぎず、1 人が考えこみすぎず楽しみながらやっていってもらえればと思います。
- ・「何でこんなに書かなきゃないの」等と学びをする上で楽な方に走ってしまいたくなる気持ちはよく理解できますが、自分の将来を考えると、今がふんばりときだと思います。頑張って卒業し、介護士として輝けるように…！！
- ・がんばって下さい！
- ・介護業界はストレスが多いから自分なりの発散方法を確立しておいた方がいいです。
- ・実習を乗り越えた力は、その後いろいろな場面で役立ちます。逃げ出さずに頑張った事、後で思い返した時、自分でも褒めたくなります。それでまた頑張れます。学生生活楽しんでください。
- ・養成校で実習や座学をがんばり、その成果がのちに発揮されることがある為、頑張ってほしい。
- ・しっかりと趣味を持った方がいい。その趣味を大事に生きがいにして仕事してください。腰のストレッチは毎日やった方がいい。整体にかよったり、温泉につかったり、サウナに行ったり、自分の体（自分の健康）の為にもしっかりお金を使ってください。まじめになりすぎず、うっかりさんなぐらいの性格の方がいい。じゃないとすぐこの仕事はうつ病になりますよ！
- ・きちんと学ぶことで現場で役に立ちます。大変だと思いますががんばって下さい
- ・資格取得に向けて日々の勉強や実習大変だと思いますが頑張ってください。応援しています。
- ・卒業後に現場で働いてみて“合わない”と思ったら、全く違う仕事をしていても良いと思います。若いうちにしか経験できない職種もたくさんあります。ただこれから年齢を重ねていく中で、介護の資格は必ず役に立ち人生を助けてくれると思います。資格を取得しておくことはとても大切です。ぜひ頑張ってください。
- ・介護は大変ですが、けして無駄な時間ではないので、無理せずがんばってください！
- ・就職してから合わないと思う事もあるとおもいますが、介護施設の形態によって働きやすさはかなり変わるので、是非色々な施設を検討してみてください。
- ・学校には教材がそろっています。施設にないものもあります。体験、触れるときにやっていただいた方がとても勉強になりますし、介護の仕事に就いた際とても役立ちます。頑張ってください。
- ・目標をもって頑張ってください
- ・私は卒業してすぐ看護師の資格を取りました。老健への転職を考えた際、施設勤務は未経験でしたが、就職はすぐ決まりました。介護士、看護師の二つの資格を持っているのは心強いと言っていただきました。介護士の先輩と排泄や入浴、食事の介助をすることも多く、この学校で学んだことはすべて必要で仕事が始まればすぐに使う知識と技術でした。人の心と命に寄り添い、自分の行動に相手の人生を左右させてしまう立場にいることを忘れず学びを深めていってほしいです。
- ・はじめは人間関係に苦戦すると思うけど、自分なりに言葉使いに気を付けることと、自分の体に合わせて介護福祉士になってください
- ・自分は在籍中は怒られてばかりの生徒でした。しかし、先生方の教えてくれることはどの職種においても活かされてきます。自分は現在介護職から離れていますが、人に接する仕事は時にはキツく、その分やりがいもあると思うので沢山今は壁にぶつかって下さい。応援しています。

- ・利用者様にはゆったり接し、業務はテキパキと！！
- ・介護福祉士の資格取得は大変ですが、気持ちを強くもってがんばってください。
- ・なくてはならない仕事だと思うので適性が合うのなら頑張ってください
- ・私達の恩師が話していた「介護とは生き方」という言葉。この仕事を続けてきて意味が分かってきました。今思えばなるほどと。利用者さんのお世話をしていく中で、喜怒哀楽に豊かさが感じられ十人十色の考え方に触れて、介護の仕事や自分の人生の成長に繋がるヒントが隠されていたりしますので、続けることに価値がある仕事だと思います。
- ・在学中は実習や授業を億劫に感じますが、そのまま経験値となりますので前向きにがんばってください。
- ・実際、養成校で勉強することにより家族が介護状態になった時に知識があるのとないのでは対応に自信が持てるか変わって来ます。しっかり勉強して頑張ってください。応援しています。
- ・難しい言葉・文字がたくさんで覚えるのも実践するのも大変で辛いと思います。実習期間は本当に病みますが、それを乗り越えた先には“やりがい”“楽しさ”があるはずです。教科書では学べない多くのことを吸収できる実習は自分に合う施設や事業所を見つけることができるので元気を出して楽しんでやってもらいたいです。毎日眠いと思いますが、皆さんがより濃い時間をこの介護福祉学科で過ごせるよう応援しています。介護はダサくないです！プロの集まりが輝いています。誇りを持って学んでください！
- ・最初は大変かもしれませんが、やっていくうちにやりがいになってきます。頑張ってみてください。
- ・実習の記録は今はずらいこともあるが、資格を持っていることで専門知識を持ち根拠に基づいた支援ができるようになります。社会で働くことでもう1ランク上を目指したいと思えるよう頑張ってください
- ・人の役に立つ良い仕事だと思います
- ・介護は重労働というイメージがありますが、利用者様に働きかけることで介護予防にもなり、残存機能維持、向上をしていくとても重要な役割です。楽しく、面白く仕事ができる職業でもあります。今学んでいることは自分の宝になりますので頑張ってください。
- ・介護職は、大変かと思いますが、短期大学で知識や技術を磨けばのりこえて楽しく仕事をしていくことができると思います。身体に気をつけながらがんばってください。
- ・やりたいことをやれば良い。条件が悪い場合でも一度挑戦してみて合う合わない続けたいか決めれば良い。
- ・基本というものはとても大切です。どんなに長く勤務していても、基本というものがあるから応用もできる、工夫もできるようになります。どんなことにも目を向けられる目線を日頃から意識することをすすめます。それによって利用者様の小さな変化に気がつけるからです。その小さなことはとても大きなことです。どうか負けずに努力してください。応援しています。
- ・介護技術は、長い年数職についていると身につきます。介護は楽しいことは少ないと思いますが、とてもやりがいのある仕事です。今学校でいろんな勉強をしていると思いますが、自分の心との向き合い方、モチベーションの上げ方、コミュニケーション能力をとにかく培ってほしいです。「介護」の始まりは自分の心と向き合うところから始まります。そこから、いろんな教えや気づきが出来てくると思うので、自分に素直に生活してほしいと思います。

V 考察

1 基本属性について

回答者の男女比はほぼ 2:8 であり、女性の割合が大きい。年齢は 20 代から 50 代以上まで、多様な世代が介護職員として働いている。年齢段階で見ると、男性では 30 代(42.1%)が最も多く、女性では 20 代(82.4%)が最も多くなっている。今回の調査対象者の卒業後 5 年から 10 年を経過した第 17 回生～第 27 回生 188 人の男女比は 3:7 であった。厚生労働省の令和 5 年度介護労働実態調査の介護業界全体の平均年齢は 45.9 歳で、男性は 35 歳以上 40 歳未満が 18.0%と割合が最も多い。女性は、40 歳以上 45 歳未満が 14.0%と割合が最も多い²⁾。このことから、介護現場の男女比は、圧倒的に女性の方が多いことが分かる。同性介護を取り入れている介護現場もあることから、利用者の生活場面ごとに協力し合って働くことは利用者にとっても利点であると考ええる。

2 勤務先の施設種別について

回答者数 52 人のうち、20 代で多い施設種別は、介護老人福祉施設 6 名 (60.0%)、30 代では、介護老人保険施設 4 人 (28.6%)、40 代では、小規模多機能型居宅介護 2 人 (40.0%)、50 代以上では、認知症対応型共同生活介護 2 人 (33.3%) という結果で、施設種別における年齢構成は様々であることから介護福祉士の仕事は年齢問わず働くことが可能であると言える。また、公的施設から民間施設と今日の介護福祉士の就業領域は幅広く、施設の種別によってサービス内容が異なり求められる支援内容が変わる。このことから介護福祉士資格取得した卒業生は、自身の経験やスキルを活かし現在の施設種別を選択していると考えられ、専門職として活躍できる場であることが窺える。

3 雇用形態について

回答者数 52 人のうち、定年まで雇用される常勤職員が 20 代 7 人(70.0%) 30 代 14 人(100.0%)、40 代 4 名 (80.0%)、50 代以上 4 名 (66.7%) とともに多い結果となった。回答者の 8 割以上が、定年まで雇用される正規職員として働いている卒業生が多い傾向にあった。一方、パートやアルバイト雇用形態が 1 割未満の者がいた。「介護の仕事」には様々な種類があり、その働き方は非常に多様である。多様な選択肢から自分のライフスタイルにマッチした働き方を柔軟に選択することができる³⁾。結婚や育児により夜勤や遅番などの変則勤務ができないことから非正規職員として働いていることが窺うことができ、自身のライフスタイルに適した働き方が可能であると言える。

4 職位について

回答者数 52 人のうち、一般職 31 人 (88.6%) が多い結果となった。調査対象の属性が、卒業後 5 年～10 年を経過した者を調査対象としたことによる関連性が深いと考えられる。ほかの回答には、管理職 1 人(2.8%)、主任・リーダー 3 人 (8.6%) と、役職がついている卒業生が 1 割近くいる結果となった。介護現場における管理職は、現場の介護職員をとりまとめ、業務を円滑に進められるようマネジメント力が求められる。職員の教育・育成、利用者家族・他職種との連携、勤務調整など多様な仕事を担っている。回答者のうち役職がついている卒業生が一定数い

ることからも、今後も介護現場での中枢としての介護福祉士養成は必須であると言える。介護職のリーダーについて、介護職の統合力や人材育成力などの能力が求められているものの、十分に発揮できていないと感じている管理者が多い⁴⁾。そのことから、介護福祉士養成校として介護職のチームリーダーに求められる能力が担保できるよう、介護福祉士として必要な素養を育成できるよう「求められる介護福祉士像に近づく人材育成」を意識して取り組む必要がある。

5 卒業してからの転職回数について

介護福祉職として働いている37人（無回答者1人）回答者のうち、転職回数0回が多い結果となった。回答者の属性が、卒業後5年～10年を経過した者を調査対象としたことによる関連性が深いと考えられる。また、働いている環境が、満足度に繋がっているのではないかと、このことから近年の介護現場における労働環境は働きやすい環境になってきているのではないだろうかと考えられる。つづいて、転職回数1回と2回の者がいる。回答者の割合が8割近く女性であることから、結婚や出産などの要因が転職回数と関連があると考えられる。一方、介護労働実態調査の離職理由「結婚・妊娠・出産・育児のため」は2019年度の20.4%から4年連続で減少し2023年度には8.2%になったことから、働き方改革の取組みの成果といえると考えられる⁵⁾。今後、本学卒業生において個々のライフステージに応じた働き方が可能であることが結果から期待できるところである。

6 現在の仕事の満足度について

回答者数52人のうち「総合的な満足度」について、満足していると回答した者が20代(40%)、30代(42.9%)、40代(40%)、50歳以上(50%)と全ての年齢段階において、満足していると回答した者が多い結果となった。項目別においては「上司との関係」、「同僚との関係」、「職員のスキルアップ支援について」、「業務改善の進める仕組みづくりについて」「職員相互のコミュニケーション」に満足していると回答した者が多い傾向があった。このことから、職員が職場に対して満足感を持ち業務改善が進められていることが窺える。さらには、介護現場において仕事に対する満足度の考え方の傾向として「人間関係」にウエイトをおいていることから、介護福祉士養成校において対人援助における知識の習得を高める必要性が示唆された。一方、現在の仕事の満足度について、どちらでもない、満足していないと回答した者が一定数いる。このことから、回答者個々人の職業観の違いが大きいことが考えられる。国立教育政策研究所生徒指導研究センターは、世の中にはどのような職業があり、それぞれの職業ではどのような仕事をし、どんな専門的な資質・能力が必要なのかなどについての知識・理解をもとに、自分はどの職業にどのような意味付けを与えていくかということが職業観であると報告している⁶⁾。今後、介護福祉士という職業における専門的な資質・能力の担保の意味づけをしていく職業観教育の必要性が介護福祉士養成教育に求められると考える。

7 これからも介護の仕事を継続したいか

これからも介護の仕事を継続したいか回答した者は、80.0%という結果となった。介護労働安定センター「令和3年度介護労働実態調査」によると、介護の仕事をしている方のうち、仕事内容、人間関係、職場環境等に対して「満足」と感じている方の割合は「不満」を感じている方の割合を大きく上回っている。仕事にやりがいを求める方にとっても、働きやすい環境で安定して

働きたい方にとっても向いている業界といえる⁷⁾。継続したい理由として、利用者との関わりで楽しさや学びを得ることによって「やりがい」を感じており今後も需要が高い職業であると認識している。さらに、子育てと両立しやすいことや介護福祉士の資格を活かして働ける職業であるという前向きな意見が多く見られた。また、体力と気力が必要であると感じており、腰痛が悪化しない限り続けたいという不安要素のある者も見受けられた。一方で、継続したくないと回答した者は20%という結果となった。継続したくない理由として、変則勤務によって、プライベートの時間が削られ精神的・身体的・経済的にも継続は難しいという者、家族への育児負担など少数ではあるものの、個人各々の事情を抱えていることがうかがえた。近年の介護現場では、育児休暇や短時間勤務制度の活用を促進する制度や介護職員が本来の業務に専念できる仕組みの導入など、ライフスタイルに応じた柔軟な働き方を支える環境整備が推進されており、介護ロボットやICTの活用による生産性向上のための取組も積極的に進められている。しかし、なかには自分には介護の仕事が向いていないと考えている者がおり、介護の仕事における職業観の傾向が、現在の仕事に満足しておらず介護の仕事を継続したいと思わないことに繋がっていることが窺える。

8 養成校での学びについて

回答者数52人のうち、介護福祉士養成校で学んだことに意味があったと答えている者が49人、(無回答3人)という結果で、全員が介護福祉士養成校で学んだことに意味があったと答えている。自由回答からも、養成校在学中に学んだ知識や技術が生かされているという意見が多数寄せられた。2年の養成期間での根柢を踏まえた基礎の学びには、450時間に渡る介護実習での学び、介護技術だけではなく、利用者の全人的理解が必要となる介護過程の実践的展開の学習、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践などがあり、同じ志を持った人達と同じ目標に向かって励みあって進んだ在学期間があることは心強く、社会人となった現在の原動力となっているようにも感じた。また、倫理的態度の涵養に資することは重要である。介護福祉士養成校では、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、学生の「介護観を形成」し、専門職としての態度を養うねらいのもと「介護総合演習・介護実習」科目の学びがある。今回の調査において、役にたった科目を尋ねたところ、コミュニケーション関連科目の「コミュニケーション・人間関係とコミュニケーション」が12人という一番多い結果となった。介護職は、対人援助職という職業柄、信頼関係の構築、利用者理解、協働関係の推進、利用者主体の介護を具現化するためには、基本的なコミュニケーションの展開が求められている。そのためには、介護におけるコミュニケーションの展開を実現できるようにしなければならない。介護の現場では、利用者が望むより良い生活を実現するために、卒業生がコミュニケーション能力が求められていると感じていることから、このような結果となったと考えられる。介護実習前に、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実習につなげていくこと、さらには、介護実習後には、実習を振り返り介護の知識や技術を実践と結びつけて統合・深化させるとともに、自己の課題を明確にして対人援助職としての態度形成の実現に取り組む。介護実習では、施設の実習指導者の指導をいただきながら質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を学ぶ機会としている。回答者の中には、「認知症の理解」が役立っていると多くの卒業生が述べている。このことから、介護現場には認知症の方が多く過ごされていることが窺えた。卒業生らは、介護に必要な周辺知識を「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」で学び、「その人らしい生活」を支えるために、必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を「介護」で学ぶという、介護福祉士養成教育の基

本的体系のもと学習した成果であるといえるのではないだろうか。

9 本学に期待すること

卒業後、本学に期待することについて、研修会の開催 14 人、最新の情報共有 12 人、卒業生との交流に 9 人、教員との交流、交流会の開催に 7 人悩み相談 6 人（複数回答）という回答が得られた。また、雇用形態が一般職の人ほど「研修会の開催」、「最新の情報共有」「悩み相談」「交流会の開催」の場を養成校に求めている傾向にあった。卒業生がチームリーダーの下で専門職として役割を発揮し、将来的に自らがチームリーダーを担う際の素養として、リーダーシップやフォローアップの学びの充実が求められるのではないだろうか。これまでの卒業生の多くが、地元の高齢者福祉施設などに就職し、地域の介護現場を支えてきた。質の高い介護福祉士の人材育成には職場内教育はもちろんのこと、日本介護福祉士会を始めとした職能団体等の研修、更には介護福祉士養成校のサポートも大切であると考えられる。

高野氏は、介護福祉士資格取得の養成施設ルートと実務経験ルートの大きな違いは母校があるということである。母校の教育資源には人的資源と物的資源が挙げられる。人的資源は教職員、物的資源は母校の図書館の利用や物品・設備の活用と述べている⁸⁾。母校の存在は、継続的に卒業生を支援する上で大きな役割を果たすと言える。教育資源は自己啓発を促し、キャリア形成に繋がる。現在、本学において就職支援の一貫として、卒業生による施設種別毎の講話の機会を設けている。在学生にとって、身近な先輩の体験談や助言などは、目標とする介護福祉士のイメージに繋がりがやすく好評である。また、悩み相談などは、卒業生個別に行われているが、状況に応じて臨機応変に対応できる部分を残しつつ、組織的な枠組みを設けることが今後の課題である。さらには、卒業生のニーズに応じて、本学を活用してもらえ支援を検討していく必要があると感じている。約 6 割の方が復職したくないとのことであるが、約 4 割の方は復職したいと考えている。このことから、離職者の再就職につながるサポートが重要である。現在介護福祉職として働いている者の卒後教育にとどまらず、現在介護福祉職から離れているが、復職したいという者に対しての、復職支援体制を実施することによって潜在介護福祉士の職場復帰への一助になるのではないかと感じている。公益財団法人社会福祉振興・試験センターの「介護福祉士就労状況調査」によると約 12 万人が潜在介護福祉士である⁹⁾。いずれにせよ、近年の介護福祉職が求めているニーズは多様であると考えられるため、その都度、どのようなことを求めているのかニーズを把握した上で「情報交換会」などを開催する必要がある。本学としては、「卒後教育」と「教育資源の提供」「卒業生と在校生との交流の場」を設けることが可能であると考えられる。そのためには、質や効果の検証など多くの課題も残されている。卒業生が自らの職業人生の道筋を描き、見通しを持つことは、自己研鑽しつつ働き続けて行くことの意欲を高めるうえで重要であると考えられる。今後、キャリアアップを図るうえでも職能団体に加入し、キャリアパスに応じた生涯研修に取り組むことによって、専門職として自己研鑽し成長し続けることが必要であると考えられる。そして「介護福祉士」という仕事に、働きがいや誇りを持てることは、職場全体が、同じ目標に向かって切磋琢磨しながら取り組んでいく体制を整える後押しになると感じている。今後の「卒後教育」に、この結果を活かすことで調査協力された卒業生へのお礼にしたい。

VI 結語

本調査は、平成 19 年改正の新カリキュラム以降の卒業生である八戸学院光星高等学校専攻科

介護福祉科卒業生 第 17 回生～第 27 回生の 10 年間という限定した調査であったことから調査対象の年代条件に偏りが見られたが、卒業後 10 年間の経過にある者の意見として卒業生が養成校に求めることが明らかとなった。そして、調査結果から介護福祉士養成校としての「卒後教育」の方向性が示唆された。

卒業生が、対人援助職としてコミュニケーションの必要性について実感していることから、介護福祉養成教育において、人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーションが重要であると考えられた。人間力のある若者を育てていくという、教育機関としての重要な役割を常に意識し、介護の職場で活躍する若者を養成する取り組みを、現場で働く方々と連携協働しながら着実に進めることが求められる。さらに、復職したい卒業生が一定数いることから復職支援体制を実施することは潜在介護福祉士の職場復帰に繋がる機会となりえる。本学の卒業生が介護福祉の専門職として、介護職のグループの中で中核的な役割を果たし、認知症高齢者の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応できるように養成して参りたい。地道な取組ではあるが、積み重ねによって介護のイメージアップを図り、介護福祉士養成校への入学者減少に歯止めをかけることができると考えている。「卒後教育」が卒業生の職場で生かされることで、他の介護従事者への周知に至り、職場全体の質の向上に繋がることが望まれる。今後、卒業生に対する「卒後教育」の具体的な在り方を模索して参りたい。また、「介護福祉士養成校の後輩に向けてのメッセージ」の熱い気持ちを在校生にお伝えすることによって職業観形成に取り組んで参りたいと考える。

〈謝辞〉

本調査研究の実施にあたり、ご多用の中、ご協力をいただいた八戸学院光星高等学校専攻科介護福祉科卒業生 第 17 回生～第 27 回生の皆様に対して、心からの謝意を表する。本調査研究は、八戸学院イノベーション基金の助成をいただいて実施することができた。併せて謝意を表したい。

引用文献

- 1) 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会：「介護福祉士養成校の入学者数と施設数の推移」2024. 9. 30
- 2) 公益財団法人介護労働安定センター：「令和 5 年度介護労働実態調査」2024. 7. 10
- 3) 今井訓子「介護職離職の構造に関する研究～介護福祉士養成校卒業生の追跡調査から～」2011 植草学園短期大学研究紀要 P. 8-9
- 4) 介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて厚生労働省社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会 2017. 3. 28
- 5) 公益財団法人介護労働安定センター：「令和 5 年度介護労働実態調査」2024. 7. 10
- 6) 林雅美「介護に従事する若年者の職業観の実態と就業動機との関連-介護福祉士養成校卒業生の就業状況を通して-」2012 年 P49
- 7) 令和 3 年度厚生労働省委託事業「株式会社日本総合研究所」：「介護業界で働いてみませんか」
<https://www.mhlw.go.jp/content/11650000/000912552.pdf>
- 8) 高野恵子「介護福祉士養成と卒後教育の在り方」甲子園短期大学紀要 2011 第 29 巻 P52-57
- 9) 公益財団法人社会福祉振興・試験センター「介護福祉士就業状況調査」2021. 7. 9

参考文献

- ・厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の将来推計について https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41379.html 2024. 7.12
- ・公益社団法人日本介護福祉士会 新カリキュラム対応「介護実習指導の内容とポイント」
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000651536.pdf>
- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定に関する調査研究事業報告書」2019. 3 日本介護福祉士養成施設協会冊子
- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会「判断能力を高める主体的学びによる（仮称）管理介護福祉士の養成」<https://kaiyokyo.net/book/> 2019

執筆者紹介(所属)

岩館亜沙美 八戸学院大学短期大学部介護福祉学科 講師

鈴木 絵美 八戸学院大学短期大学部介護福祉学科 講師